

教育委員会及び関係団体からの意見聴取結果について

令和7年12月中に、次期久留米市文化芸術振興基本計画（案）について、久留米市教育委員会と市内の文化団体（久留米連合文化会、旧4町地域の各文化協会）に対して概要を説明しました。それに対する主な意見は、次のとおりです。

1. 市教育委員会

- ・ 計画に関する事業の広報については、市内の居住者で外国人が多くなっているの
で、英語や韓国語だけでなく、必要な言語の対応もお願いしたい。

2. 久留米連合文化会

- ・ 「市民が主役」という計画だが、その対象がアマチュアだけのポピュリズムにな
ってはいけないと思う。プロや市の文化芸術を担っている指導者、本物を見せて
いく人たちも大事。そういう人たちの育成にも目を向けるべき。
- ・ 文化芸術の活動者にとっては、会場の減免支援があるといい。それでネームバリ
ューを広げてもらいたいと思う。
- ・ 中学生の美術鑑賞事業があるが、中学生になると既成観念ができてしまう。小学
校の授業に美術鑑賞を入れ込めるといいのではないか。

3. 三潯町文化協会

- ・ 40、50年前は会員が500～600人いたが、現在は100人ほど。各部門の会員数が
少なく担い手不足であり、今後会員を増やしていくことが一番の課題。
- ・ 博多座で12月を「市民の月」としているようなことをシティプラザでもやってほ
しい。文化協会でも半日自由に使えるなどあるといい。
- ・ 今の子どもは忙しくて、文化活動に興味を持つ子が少ない。子どもだけに言っ
ても参加しにくいので、親子でぜひ、と呼びかけるしかない。

4. 城島町文化協会

- ・ これまで36、7年活動していたが、令和7年度末で解散する予定。高齢化で役員
のなり手がなくなったのが主な理由だが、地域の文化団体への支援は、今ま
でと違った施策が必要ではないか。

5. 田主丸町文化協会

- ・ 計画案はよく作られているが、シティプラザや美術館が中心となっており、文化協会がどう位置づけられるか分かりにくい。
- ・ 日舞や大正琴など、指導者が亡くなると活動が消えてしまう教室もある。
- ・ これまで文化協会が、地域の文化の担い手を「育てる・支える」をしてきたと思う。地元の指導者を育成するとか、何かテコ入れが必要ではないか。
- ・ 文化協会の広報は、高齢者が多いのでスマホやLINE よりもチラシやポスターで、となる。文化祭の作品展示作業も高齢の会員だけでは危ないので、ボランティアスタッフの手伝いなど、人的支援があるといい。
- ・ 計画案の内容については賛成だが、地元が抱える課題も考えてほしい。

6. 北野町文化協会

- ・ 会員数を増やすために体験講座をやって、そこで会員募集をしている。子どもも囲碁講座に参加するなどしている。
- ・ 文化協会の会員たちが、小学生に笛や太鼓の指導に行き、地域の祭り・歴史の話もしている。
- ・ 文化事業の担い手の後継者不足は感じている。昔から地元にいる人ではなく、他所から引っ越してきた人が半数以上の地区もあり、おくんちなど地域の祭りへ協力してもらおうよう、意識を高めていきたいと思っている。